

京都・長岡京跡 (2)

- 1 所在地 京都府向日市上植野町五ノ坪
- 2 調査期間 長岡京左京第三五六次調査 一九九五年(平7) 一月～六月

3 発掘機関 (財)向日市埋蔵文化財センター

4 調査担当者 國下多美樹

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

調査地は標高一三・五～一三・七mを測る旧小畑川の扇状地面に位置し、左京三条二坊六町と、三条条間南小路・東二坊坊間小路の交差点に相当する。

長岡京期の遺構として、三条条間南小路北側溝、東二坊坊間小路西側溝の二側溝の他、六町内で掘立柱建物一棟、目隠し塀四条、柵

三条、門一カ所、池状遺構二基、トイレ状遺構一基、町内溝二条、土坑一基他を検出した。池状遺構は素掘りで方形を呈し、水生植物の栽培池かと推測される。

木簡は、三条条間南小路北側溝SD三五六一五から七点、東二坊坊間小路西側溝SD三五六二〇から一点、池状遺構SG三五六一〇七から二点の総数二〇点が出土した。条坊側溝出土の木簡は両側溝の交差点付近に集中し、大量の土器類(墨書土器を含む)、平・丸瓦、金属製品、土製品、木製品が共伴した。また、池状遺構出土の木簡は、完形の舟型木製品、土師器高杯と近接して出土した。

六町は、北半の調査(左京第二二〇次)で官厨米や衛府関係の木簡多数の墨書土器(主厨「給服所」「中家」「井北」など)が出土しており、今回の成果を含めると宮外官衙町の一つであった可能性が高い。なお、廃都直後の延暦一四年(七九五)正月二十九日付太政官符(「類聚三代格」卷一五)に、「長岡左京三条二坊六町」ほか合計七町を勅旨所の藍圖に充てることがみえる。

8 木簡の釈文・内容

三条条間南小路北側溝SD三五六一五

(1) 奉度経等合四金剛般×

(187)×24×2 081

(2) □錢二百文

(61)×12×3 081

(3) ・「備前□□」

257×22×5 051

・「□□」
〔水カ〕

(4) 『□□』戸主 阿波□□

091

(5) 「腸勝□□」

(103)×21×6.5 019

(6) ・「□□大□□」
□□讀 是□□

・「□□」

(116)×26×6 019

東二坊坊間小路西側溝SD三五六二〇

(7) ・「□□□□」

(139)×(16)×4 019

・「□□□□□□」
〔如件カ〕

(8) ・秦廣山「」

・「□□□□□□」

(67)×(13)×2 019

(9) 「山厚カ」
□□

091

(1)は金剛般若経など合わせて四点の進上に関する文書簡か。(5)(6)は習書。(5)の三文字目は「月」(にくづき)の付く字である。

(7)は文書断簡。(8)は上部を焼損する。「秦廣山」の名前は、天平

勝宝七歳(七五五)九月班田司歴名に山代国算師としてみえる(『大日本古文書(編年文書)』四一八二)。東二坊坊間小路西側溝出土木簡は(7)~(9)の他に、断簡五点、削屑三点があるが、いずれも判読できていない。題籤軸部が伴出する。

池状遺構出土の断簡二点も遺存状態が悪く、判読できていない。内一点は上部に符籙と思われる墨線が引かれている。

(國下多美樹・清水みき)